

ベトナム中部の都市ダナン。街は欧米やアジアからの観光客であふれ、海岸線はリゾートホテルの建設ラッシュが続く。しかし、その輝かしい発展の裏で、今も住民を苦しめる存在がある。猛毒ダイオキシンを含む「枯れ葉剤」だ。



⑤日本にきたベトナム人たちに、動作法を教える吉川教授(中央)＝名古屋市北区の愛知学院大名城公園キャンパスで ⑥自ら立ち上げたベトナム・ダナンの施設で男児に動作法を施すビエットさん(右)

ダナンの特別支援学校で教員を務めるグエン・スアン・ビエットさん(三〇)は吉川教授の教え子の一人。学校ではマンツーマンで動作法を施し「落ち着きがなく、集中力が続かない子に特に効果がある」と実感す

られるようになり、今は小学校入学に向けて算数を勉強している。

ビエットさんは「障害と枯れ葉剤の因果関係は私には分かりません。でもこの街に障害者が多いのは事実。そのために動作法が効

果的なのも実感しています」と話す。吉川教授も「ベトナムでは障害者が多い割に、障害児教育は充実しているとは言えなかった。日本から得た知識で障害者支援を充実させてほしい」と願っている。

動作法で症状を好転

続く枯れ葉剤被害

のかは誰も答えられない」。市保健局のグエン・ウット副局長（五十九）の口は重
い。

このダナン市の障害児教

の不調を改善させる技法。
脳性まひや自閉症などに効
果があるとされ、肩の上げ
下げや前屈などの動作を通
じて実践する。

動作法の効果を目の当たりにしたダナン師範大が講師として招き、関係が続いてきた。昨年八月からは国際協力機構（JICA）の支援を受け、ダナンで動作法の指導員を養成するプロジェクトに取り組む。

ベトナムは今 ②

育の現場で取り組まれている日本発の心理療法がある。「動作法」だ。

動作法は、体の負担にな
っている余計な力や緊張感
を取り除くことで、心や体

指導役となっているのは、二〇〇八年からベトナムで動作法を教えている愛知学院大（日進市）の吉川吉美教授（六〇）をリーダーとするグループ。吉川教授の指導は好評で、一五年には市中心部に障害児を受け入れる施設を個人でつくった。学校で働いた後、ここでも動作法を行う。施設を訪れると、ピエッ

る。指導は好評で、一五年には市中心部に障害児を受け入れる施設を個人でつくった。学校で働いた後、ここでも動作法を行う。施設を訪れると、ビエッ